

大学院ニュースレター

久留米大学大学院医学研究科

第 48 号 / 2008 年 9 月 16 日発行

編集 / 医学研究科長

『久留米市街地の空洞化～大学から街を眺めて～』

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 伊藤信輔 教授

久留米の中心市街地は、かつては筑後地域随一の繁華街でした。女優の黒木瞳さんは、その名の由来する黒木町に今も生家がありますが、あるテレビ番組の中で中学時代の思い出を語り、週末に久留米に行って映画を観たり、買い物をしたりするのが楽しみだったと話すのを聞いたことがあります。

私なども子供が小さい頃は、マンガ映画を観せに連れて行ったり、井筒屋の屋上の遊園地で遊ばせたりしたものです。当時は東町公園の地下駐車場にはなかなか空きがなく、苦労しました。

ところがいつの頃からか映画館が減り始め、東映、東宝、松竹と順に消えていき、最後まで頑張っていたスカラ座も今年 2 月に閉じられてしまいました。地下駐車場は、今では気味が悪いほどがらんとしています。

商店も減り続け、私などがよく利用していたたがみ書店、CDなどを売る新星堂、靴下屋までシャッターが降ろされたまになりました。

スカラ座が閉館する 2 週間前に、懐かしいスティーブ・マックィーン主演の『大脱走』を観に行きましたが、2 時間を超える上映時間中、他には誰も客はいませんでした。その日昼食をとりに入った井筒屋の中華料理店でもずっと独りでした。

帰りに覗いた六角堂広場の舞台では、大

きな音でギターなどが演奏されていましたが、聴衆はわずかで老人の姿が目立ち、街の黄昏を実感しました。

六角堂広場の敷地は、以前はあけぼの商店街と呼ばれ、小規模の店が軒を連ね、3 軒の鮮魚店をはじめ、野菜、肉、惣菜など、普段の生活に必要なものはたいてい揃っているの、かなり賑わっていた場所でした。その商店を殆んど一掃して広場に変え、催し物で人を集めて街を活性化しようとしたのですが、目論見はずれています。

広場の明治通りに面する北西の角は、元は靴店のあった場所です。再開発計画が進んでまわりが更地になっても、この店と漢方薬の店は残っていましたが、ある日突然不審火によって靴店は焼け崩れました。その時 2 階で寝ていた子供とその子を助けようとした御主人は亡くなりました。御主人は子供に覆い被さり、背部には焼け落ちた釘などの建築材料による無数の火傷があったそうです。広場が栄えないのには、こんな因縁もあると考えています。

8 月の中旬に、72 年の歴史を有する井筒屋の閉店が決まったと報道されました。街の空洞化にさらに拍車がかかります。

久留米は地方にありながら、都市の条件を備えていましたが、その一つが欠けていくように思われます。せめて大学と大学病院は活気を失わないで欲しいと思います。



ティールーム



第20回医学教育ワークショップ開催される！！

「大学院教育実質化とこれからの展開」について真剣な討論！

第20回医学教育ワークショップは、福岡県朝倉市杷木の「ホテルパーレンス小野屋」において、平成20年7月31日（木）～8月2日（土）の3日間の日程で開催された。今回のワークショップ全体の参加者は75名で、このうち大学院部会には教員14名（実行委員含む）、大学院生4名、事務2名の20名が参加した。貴重な提言を頂いた参加者各位、今回の部会開催に御尽力いただいた医学部執行部に改めて謝辞を申し上げたい。また、お忙しい時間を割いて招請講演を行っていただいた久留米大学附設中学・高等学校校長の吉川敦先生にも感謝申し上げる。

ところで、大学院部会は大学院の教育・研究にもFD活動が取り入れられることとなったことから、前回（第19回）医学教育ワークショップ（平成18年度）において卒業後教育に関する部会として設置され、今回はその2回目ということである。特に今回は「大学院教育実質化とこれからの展開」というテーマで、前回の提言を受けて実施された様々な改革を含め①このような取り組みが果たして有効であったのか（振り返り・検証）、そして、②これからの大学院教育を展望するうえで必要な取り組みは何か（提言）の2つの問いに取り組んだ。

詳細な部会レポートは別途詳細な内容で纏められるのでそれに譲るとして、まず、これまでの大学院教育改革の取り組みが有効であったか、という点については、概ね有効との意見が大勢を占めた。これについては、大学院独自で実施した学生・教員による自己点検・自己評価（意識調査）の結果（※）や、大学院の論文指導担当教員を対象に行った指導方法に関するアンケートの結果などを検証するとともに、参加者の意見も重視した。



また、平成20年代初頭の大学院教育の展開を見据えたうえで、部会提議として以下のような点を指摘した。

- (1) 大学院の魅力向上に向けて、甲号と乙号の医学博士号取得後の差別化や、社会人学生の就業時間の管理、経済的に自立できる体制、大学院博士課程入学推薦制度の確立などを目指す。
- (2) 在学期間延長者の削減に向けて、甲号と乙号における学位審査の差別化などを検討する。
- (3) 大学院による環境の整備に向けて、医学情報センターの設置や大学院学生間交流が活発になるような施設・システムの整備を目指す。
- (4) 修士・博士課程の授業科目整理に向けて、学生が履修しやすいカリキュラム編成整備を検討する。
- (5) 学生・教員・社会が求める大学院教育の充実に向けて、新たな教育コースワーク（感染看護専門看護師教育課程の整備等）を実施する。
- (6) web利用を含めた情報発信の強化に向けて、IT推進委員会（仮称）等を設置し、検討する。
- (7) 国の文部科学行政の動向を踏まえた教育の展開に向けて、積極的に対応できる体制を大学全体として整えるとともに、新たな教育コースワークを積極的に提言していただきたい。

提言実現のための研究科委員会での討議を！

これらの提言を今後どのように実現していくか、については、平成20年代の大学院教育の展開を見据えたうえで、財源問題の解決や大学法人をはじめとした大学全体のコンセンサスを得る必要のある提言もあることから、今後の大学院医学研究科委員会においてさらに検討を重ねて欲しいと考える。

※大学院独自で実施した「学生・教員による自己点検・自己評価（意識調査）」の結果については、ニュースレター本号で特集しています。





大学院医学研究科における自己点検評価アンケート結果について

平成19年度末に大学院医学研究科学生及び科目担当責任者（教員）を対象に、「大学院医学研究科における自己点検評価アンケート」を実施したが、このほど調査結果が集約された。結果は先に開催された医学教育ワークショップにおいて報告され、実際に学んでいる大学院学生や教育研究指導に従事している教員が現状の大学院教育をどのように感じているのか、について把握するための資料として活用した。

併せて、ここに広く学内外の皆様にも結果を報告するので、今後の大学院教育に役立てていただければ幸甚である。

以下、調査の概要と分析結果を紹介する。

〔調査実施の概要〕

(1) 「教員に対する大学院教育・研究に関する意識調査」の実施

- a. 対象者：大学院医学研究科に所属する有給講師・准教授・教授で、平成19年度に履修登録がなされた科目の担当責任者

| | | |
|-------|---|----------------|
| 対象者 | ： | 80名 |
| 有効回答者 | ： | 51名（氏名未記名2名含む） |
| 無回答 | ： | 29名 |
| 回答率 | ： | 64% |

- b. 実施時期：平成20年2月～3月
c. 実施方法：氏名記名方式。講座等を通じて配布。

(2) 「学生による大学院教育・研究に関する意識調査」の実施

- a. 対象者：平成20年1月現在大学院医学研究科に所属する学生

| | | |
|-------|---|---|
| 対象者 | ： | 修士課程：52名（全学生56名中休学等除く） 博士課程：41名 （全学生122名中休学・満期退学・未履修者等除く） |
| 有効回答者 | ： | 修士課程：24名、博士課程：15名 |
| 無回答 | ： | 修士課程：28名、博士課程：26名 |
| 回答率 | ： | 修士課程：46%、博士課程：37% |

- b. 実施時期：平成20年2月～3月
c. 実施方法：氏名記名（一部無記名）方式。講座等を通じて配布。
なお、「講義実習に関する意識調査」については、学生が履修した科目ごとに実施する。

〔調査結果の分析〕

○回収状況

教員評価調査回収率は60%を超えたが、学生による調査回収率は50%を下回った。今後さらなる回収率の向上に努め、精度向上につなげたい。

○教員に対する大学院教育・研究に関する意識調査結果

- ・教員の研究活動を示す基準の一つとして「国内外における学会研究会の発表及び論文の発表件数」を調査した。その結果、国内の学会発表件数以外は低率であった。その要因に業務多忙、予算削減などが考えられるが、同時に研究の成果は簡単に出ないとも考えられる。
- ・教員研究費の確保については科研費を含む何らかの助成を獲得している。
- ・大学院教育研究に対する教員の自己分析では、指導に対する熱意はあるが、シラバスなどの情報提供が不十分との認識がある。講義の指導方法に対しても要改善との認識がある。
- ・教員の大学院教育に対するコメントについては、学生の教育環境と能力向上に対する要望の声があがっている。併せて、教員組織に対する改善の意見も見受けられた。

○学生による大学院教育・研究に関する意識調査（修士課程）結果

- ・学生の学会、論文発表は低率であった。研究活動の活性化のための改善が必要ではないか。（例：中間発表会の実施など）
- ・学修態度自己分析は高いが、研究計画の進捗状況は遅延気味である。一因として社会人学生などが自身の業務多忙などが考えられる。
- ・学群別科目別の5段階評価については、概ね高い評価を得た。但し、いくつかの学群で「シラバスに情報が開示されていない」「教員の講義・実習に対する準備が不足」との不満がある。
- ・修士課程学生による大学院教育へのコメントについても、概ね高い評価を得た。しかしながら、中には手厳しい意見もあったので、真摯に耳を傾けたい。

○学生による大学院教育・研究に関する意識調査（博士課程）結果

- ・学生の学会、論文発表は低率であった。研究活動の活性化のための改善が必要ではないか。（例：中間発表会の実施など）
- ・ここ数年の大型研究プロジェクト（代表例：21世紀COEプログラム）を獲得してきたことにより、当該プロジェクトからの研究費助成（RA採用を含む）を獲得している学生も多い。このような若手研究者助成は研究の活性化に寄与しているものと考えられる。しかしながら、今後は重点補助削減のため、厳しい。
- ・学修態度自己分析は高いが、研究計画の進捗状況は遅延気味である。一因として社会人学生などが自身の業務多忙などが考えられる。特に診療との兼ね合いが懸念される。
- ・専攻別科目別の5段階評価は概ね高い評価を得た。
- ・博士課程学生による大学院教育へのコメントについては、概ね高い評価を得た。中には建設的な改善提言も見受けられた。



〔調査結果の概要と今後に向けて〕

これまでの大学院教育の医学研究科において平成19年度開講した授業科目の科目担当責任者及び平成19年度に履修登録を行った学生を対象として、それぞれの教育研究業績や大学院教育に対する熱意等（学生には理解度等）を自己分析していただいた。回収結果は教員調査が60%、修士課程も約半数の回答を得たが、博士課程は回収率が低迷した。回収結果を分析した結果、概ね回答者は現在の教育に満足するも、改善を求める意見も見受けられた。こうした声に耳を傾けていくほか、今後さらに回収率を向上し、教育研究の改善に資するよう努力したい。

※詳細な本調査結果を近日中に大学院医学研究科ホームページでも公開する予定です。ご覧下さい。

事務通信



◆修士・博士課程の皆様へ◆

平成20年度 大学院セミナーシリーズ特別講義 後期日程のお知らせ

| 担当講座 | 講義日時 | 会場 | 講演者 | 講義テーマ |
|------------------------|--------------------------|-------------------|--|----------------------|
| 分子生命科学研究所 高分子科学研究部門 | 10月14日(火) 15:00~16:30 | 教育1号館5階 1501教室 | 坂田 洋一 教授 (自治医科大学分子病態治療研究センター) | D I Cと線溶 |
| 公衆衛生学 | 11月27日(木) 18:00~19:30 | 教育1号館5階 1501教室 | 小野 充一 教授 (早稲田大学大学院人間科学研究科) | 緩和医療の将来展望 |
| 泌尿器科学 | 12月4日(木) 17:00~18:30 | 教育1号館5階 1501教室 | 吉田 正貴 准教授 (熊本大学大学院医学薬学研究部総合医薬科学部門生体機能病態学講座) | 下部尿路機能障害治療薬の薬理とメカニズム |

日時・場所等に変更がある場合には、大学院医学研究科ホームページでお知らせします。また、今年度より5回以上のセミナー出席およびレポート提出により単位認定を行っております。当該科目履修登録者は各セミナー出席の上、1週間以内に医学部事務部教務課までレポートをご提出下さい。



◆博士課程の皆様へ◆

平成20年度博士課程共通科目 後期講義計画及びレポート提出について

共通科目を履修された方には既に通知しておりますが、今一度講義計画及びレポートの提出期限（別掲）についてご確認の上、所定の期日までにご提出ください。なお、講義の変更等ある場合には、大学院ホームページ掲示板にてお知らせしますので、そちらもご覧いただくよう併せてお願い致します。

(1) 講義計画（後期日程）

| 実施時期 | 科目名 | 科目担当 責任者 | 所属 | 第1回講義 | 場所 | 備考 |
|------|-------------------------------------|-------------|-----------------|------------------|----------------------------|--|
| 後期 | 臨床研究主任 研究者養成ユ ニット | 山田 亮 教授 | 先端癌治療研 究センター | 9月17日(水) 6時限 | 教育1号館 1501教室 | 11回講義実施。 |
| 後期 | 臨床・基礎研究 と生命倫理(コ ンサルテーショ ン) | 嘉村敏治 教授 | 産婦人科学 | 10月16日(木) 6時限 | 教育1号館 1501教室・ 1502教室 | 10月16・23・30日、 11月13・20・27日、 12月4日講義実施。 |
| 後期 | 科学的根拠に 基づく医療(EB M) | 上野隆登 教授 | 先端癌治療研 究センター | 10月17日(金) 6時限 | 教育1号館 1501教室 | 第1回のみ講義実 施。 レポート提出有。 |
| 後期 | プロテオーム/ ペプチド解析 | 諸井将明 教授 | 分子生命科学 研究所 | 12月16日(火) 6時限 | 教育1号館 1501教室 | 4回講義実施。 最後にレポート課題 を課す。 |

(2) レポート提出が必要な共通科目

| 実施時期 | 科目名 | 科目担当 責任者 | 所属 | レポート課題名 | 提出期限 | 提出場所 |
|------|-------------------------------------|-------------|-----------------|------------------------------|---------------|-----------------------------|
| 前期 | 免疫関連分子と T細胞抗原レセ プター多様性の 解明 | 伊東恭悟 教授 | 免疫学 | 文書及び前号ニュ ースレターにて通 知済み。 | 10月3日 (金) | 文書及び前ニュ ースレターにて通 知済み。 |
| 前期 | ゲノムドラフトの 解明 | 高橋考太 教授 | 分子生命科学 研究所 | 該当者に文書にて 通知済み。 | 10月3日 (金) | 医学部事務部 教務課 |
| 後期 | 科学的根拠に基 づく医療(EBM) | 上野隆登 教授 | 先端癌治療 研究センター | 『EBMの功罪につ いて』 | 12月12日 (金) | 医学部事務部 教務課 |

平成21年度入学試験 要項決定！！

平成21年度大学院医学研究科入学試験の要項が、下記の通り決定しましたのでお知らせ致します。

【試験日程】

修士・博士ともに同一

* 前期試験

出願受付期間：平成20年9月22日（月）～平成20年10月3日（金）

試験期日：平成20年10月21日（火）

合格発表：平成20年11月13日（木）午前10時

* 後期試験

出願受付期間：平成21年1月26日（月）～平成21年2月6日（金）

試験期日：平成21年2月17日（火）

合格発表：平成20年3月13日（金）午前10時

※他に出願資格審査申請受付期間を設定しているのでご注意ください。

【試験内容】

* 修士課程

《基礎医学群・社会医学群・分子生命科学群・臨床看護学群》

英語・小論文・面接

《バイオ統計学群》

英語・面接

* 博士課程

英語・面接

出願資格審査、出願方法等詳細につきましては、平成21年度各課程募集要項もしくは本学大学院医学研究科ホームページにてご確認下さい。

科目等履修生も同時募集中です。そちらも詳細は募集要項、ホームページをご覧下さい。

編集後記

今月よりいよいよ、平成21年度学生募集が本格的にスタートします。来年度は修士課程に、全国的にも数少ない感染看護の教育を受講できる、臨床看護学群臨床基礎看護論「感染看護専門看護師教育課程」が新たに開設予定であり、大きな期待が寄せられます。さらにもう一つ、今年7月末、同課程臨床看護学群がん看護論「がん看護専門看護師教育課程」を、CNS 専門教育課程として認可されるよう、日本看護系大学協議会へ申請致しました。認可が下れば、本学大学院はがん看護専門看護師養成拠点として、来年度また大きな一歩を踏み出すこととなります。これら本学大学院教育をより多くの方々に周知・ご理解いただき、多くの入学希望者に恵まれるよう、努めて参りたいと思います。